

みつくら

令和 2年 8月15日 第320号
 発行 大瀬川活性化会議
 編集 「みつくら」編集委員会
 花巻市石鳥谷町大瀬川10-45-2
 大瀬川振興センター 電話45-6472

“お〜い!集まろう!創ろう!みんなの大瀬川!”

かつてない程咲いた花菖蒲園で野点

去る7月6日、葛丸の農村環境を守る会(板垣幸夫会長)主催の「野点の会」は、29名が参加して大瀬川自生花菖蒲園で行われた。今年の花菖蒲は、かつてない程の花が咲き丁度見頃であった。

高橋宗綾師範と、手伝った菅原房子さん、板垣福子さん、高橋厚子さん、熊谷るり子さん、熊谷弘子さんの6人で、参加した方々にお茶の振る舞いをして頂いた。今年は野点傘も立てて、座席に真っ赤な毛氈を敷いて華やかさの中での野点であった。折からの新型コロナウイルス感染症対策のため、茶碗は一人に1つずつ使用するため、30碗を用意して臨んだ。

地区外から参加した菊池邦雄さんは「こんなに多く咲いているとは思いませんでした。大瀬川の方々が守っているからこそ、今の姿があるのでしょうか」と述べられた。

自作耕地の一斉草刈り実施

去る7月18日、下大瀬川美土里の会(高橋義晃会長)では、2回目となる自作耕地の一斉草刈りを53名の参加で実施した。新型コロナウイルスのため集合ミーティングはなく各自出席確認後、各々の自作耕地で午前中草刈りに専念した。また、役員と自作地のない方は、共有地や刈り残されている所を点検しながらの草刈りを行った。

中央長寿会が日帰り交流会で懇談

大瀬川中央長寿会(菅原得之会長)は、8月23日と28日にグリーンホーム落合で日帰りの交流会を行った。今年度は総会も花見会もコロナ禍で実施できず、このままでは会員相互の交流する機会が無くなる今回この事業を企画した。丁度7月1日から花巻市の「温泉宿泊施設等利用促進事業」が開始となり、会費を女性は無料、男性は千円とし参加者を募集した。募集の結果は女性14名、男性が11名となり、20名以内の規制(3蜜を避けるため)のため2回に分け、23日は女性達が農作業の疲れを癒してお

喋りでストレスを発散した。

28日は男性達の日だったが前日夜に大雨警報が発令され、落合からは「警報が引き上げられた場合は途中でもお帰り頂く事がある」との連絡があったが、幸いにも雨は強くはならず、時間まで楽しく過ごした。

山祇神社例大祭は縮小

山祇神社では、秋の例大祭を含めた日程の協議を8月1日に大瀬川振興センターで直町宮司をはじめ役員と総代が集まり協議した。その中で、秋の例大祭は、新型コロナウイルス感染症対策のため祭祀は役員と総代のみで来賓招待は行わない事とし、神輿渡御も行わない事に決定した。ただし、子供神輿の運行が行われる場合は、神輿への祭祀は行う事に申し合わせもした。詳しくは、8月末までに総代の方々が各戸へ氏子負担金の徴収時にお知らせする。

大穴地内で熊を捕獲

7月11日に大穴地内にある菅原孝三さん所有のブルーベリー畑で熊1頭を捕獲した。捕獲の方法はドラム管罠で、体重は50kgの成獣であった。

前日に、南寺林にお住まいの藤井孝造(猟師)さん親子が7月10日10時頃に大穴のブルーベリーを採取中、突然畑に熊が現れた。びっくりした娘さんは自動車の中へ非難した。藤井さんは逃げ遅れて慌てたが、娘さんの「父さん早く逃げて」との大きな声に熊は渡里堤を通過して南の林へ逃げ込んだ。当日14時に藤井さんからの通報で市が罠を設置し、翌朝5時には熊が罠に掛かっていた。花巻市内では今年、これが5頭目、大瀬川では初の捕獲となった。

本物の沢力にも参加した第9回賢治やまなし祭

8月2日石鳥谷賢治の会(玉山領一会長)では宮澤賢治やまなし園で、第9回賢治やまなし祭を行った。今年度はコロナ禍のため規模が縮小され、子供育成会や来賓などは招かず会員だけでの実施となった。玉山会長は「このやまなし園が大瀬川地域の方々の協力で維持管理されている事に感謝しています。童話「やまなし」の原風景を守る為にも力を入れて活動していきます。」と挨拶の後、岩手大学の田中成行准教授が童話によく出てくる「クラムボン」についての考察を話した。

ここで、菅原得之さんが7日前に薬師堂川の近くにある菅原洋二さんのハウスの中で見つけた沢蟹を披露する場面もあった。その後は、例年は小学生に朗読してもらった童話「やまなし」を今回は参加者全員で音読したり、やまなし講話は宮澤賢治研究家の中谷重正さんに「やまなし・その後」と題した講話を聞いた。最後にエコーくずまるによる合唱曲5曲が披露され「ふるさと」は参加者全員で歌った。コロナ禍で規模は縮小したが中身の濃いやまなし祭となった。

なお、このやまなし祭は金鑄神社のそばにあるやまなしの実から5年かけて育てた苗を平成23年に菅原得之さんの土地

に移植した翌年から開催している。

大瀬川チーム準優勝!!

去る8月2日ふれあい運動公園で、石鳥谷町体育協会主催の第26回石鳥谷ソフトボール大会が開催された。参加のルールとして、今年も女性1名以上含んだ出場選手の合計年齢が350歳以上・盗塁なし等のもとに「石鳥谷大瀬川」「新堀7区公民館」「上好地公民館」「18区町内会」「八日市11区」の5チームが参加した。今回は新型コロナウイルス対策として、競技者(競技中)以外は全員マスク着用と各自が検温して、発熱37.5度以上の方は出場禁止のルールが追加となった。昨年は初戦で大瀬川チームは敗退だったが、今年は初戦を18区町内会に4-1で勝利、準決勝は八日市11区に17-3で大勝、決勝は大勝の疲れが出て新堀7区公民館に7-1で惜しくも敗れ準優勝となった。また、今年も熊谷俊哉大瀬川体協会長に早朝から応援を頂いた。

参加メンバーは、菅原幸福(監督)さん、板垣伸吾さん、板垣雄一さん、板垣圭介さん、板垣淑子さん、熊谷祐美子さん、佐藤 学さん、菅原邦典さん、菅原 茂さんで暑い中皆さんが健闘したものだ。

基盤整備図面で説明会

大瀬川地区基盤整備事業推進委員会(菅原教雄委員長)では、盛岡広域振興局農村整備室から提示された整備区画図面を対象者に確認頂くため、8月19日は7区公民館・20日は大瀬川振興センター・21日は9区公民館で19時から開催を予定している。

菅原委員長からは、「地権者や耕作者には事前に案内を出しているが、今後の大瀬川地区の青写真となるため、どの会場でもいいので是非確認して頂きたい」と話していた。当日は、「対象区画の整備可否」・「区画面積と各辺の長さ」・「その他の意見や要望」を所定用紙に記入して頂き、集約後に農村整備室で検討する予定となっている。また、山王海土地改良区の方々の出席も予定されている。

第一老人クラブが宿泊研修

去る7月26日に大瀬川第一老人クラブ(熊谷善志会長)では、恒例となっている宿泊研修旅行を21名の参加で行われた。今年度は、新型コロナウイルスで楽しみにしていたイベントも中止になったり、各地の天候不順による自然災害などで気の滅入る中、花巻市で実施の「温泉宿泊施設等利用促進事業」を活用しての地元温泉応援の宿泊研修となった。宿泊先は「渡り温泉」。当日の団体客は当会のみで、宴会場も充分三密対策が確保された懇親会となり、参加者も会話をセーブしながら思い思いにご馳走を堪能した。翌日は「高村光太郎記念館」を見学後、JA産直「だあすこ」に寄ったところ、今年のはどの家でも各野菜の生育が悪いのか、普段買うことのない野菜などもをいっぱい買い物袋に詰めて帰途についた。

みつくら

令和 2年 8月15日 第320号
 発行 大瀬川活性化会議
 編集 「みつくら」編集委員会
 花巻市石鳥谷町大瀬川10-45-2
 大瀬川振興センター 電話45-6472

“お～い!集まろう!創ろう!みんなの大瀬川!”

小雨で草が重くて苦戦した環境整備

8月8日に大瀬川運動公園の環境整備を8区の39名が出で草刈りと草取りをした。当日は朝5時ごろから小雨が降り出したのでカッパを着た人と普通の作業着の人が半々の中、大瀬川活性化会議の熊谷秀夫会長から「今年はコロナ禍の為に各種の事業が中止となり苦慮していますが、今後も皆様の知恵をお借りして進めていきます。今日は、怪我の無いように作業して頂きたい」と挨拶があった。

6月の時よりは草丈は低く、また県道側も県の委託業者が刈っており量は少なかった。しかし、雨で草が濡れて重く搬出に苦慮したが軽トラック5台分しか出来なかった。時間の関係で残りは乾いてから搬出する事にして、農地水からの提供でお茶を頂いて解散となった。

菅原幸福さんに感謝状贈呈

花巻市は、非常勤特別職として市の発展に寄与した方々に感謝状を贈っている中、大瀬川から市スポーツ推進委員「国のスポーツ基本法で規定されている公的な社会指導者」としてスポーツの推進のための活動（イベントの実施にかかわる連絡調整、市民へのスポーツの指導、その他スポーツに関する指導及び助言）に10年勤務している菅原幸福さんに感謝状を贈呈した。しかし、本年度は新型コロナウィルス感染症対策のため贈呈式は中止となった。

NHKテレビに菅原さんが出演

俳優の菅原洋美（旦那花家）さんは、7月24日のNHKBSプレミアムで放映された「大江戸もののけ物語」に「もののけ」の一員として出演した。「もののけ」とは、「物の怪」と書き、日本の古典や民間信仰において、人間に憑いて（ついて）苦しめたり、病気にさせたり、死に至らせたりするといわれる怨霊や死霊、生霊など霊のことであるが、菅原さんはその「もののけ」の準主役級として長時間出演していた。菅原さんはこれまでの出演した内で最も写された時間が長かった。菅原さんは、石中や、専大北

上高校時代に体操選手として活躍後、京都東映撮影所内にある「宍戸大全プロダクション」に所属していて、当初は主に水戸黄門などに多く出演した。宍戸大全とは我が国の時代劇特技監督でスタントマンも養成していて、菅原さんは平成14年に就職してからスタントの技術を身につけ、角さんの衣装を着替わりに転げ落ちる代役などもした。平成16年にはキャストに初めて菅原洋美さんの名前も出るようになり、平成23年まで20回以上出演している。近年では、平成31年1月にBS時代劇「小吉の女房」に出演（NHKBSプレミアム、全8話）、令和2年4月11日にNHKBSプレミアム「柳生一族の陰謀」に出演し、現在は、東映太秦映画村で「忍者ショーサスケ」に出演と共にその演技を指導している。

公葬地管理運営委員会が墓地清掃

お盆を控えた8月1日の早朝に、大瀬川公葬地管理運営委員会役員16名が公葬地の草刈や駐車場などの清掃を行った。板垣弘清委員長は「間もなく墓地所有者の墓清掃や、お盆を迎えるにあたって恒例の清掃をお願いします」と挨拶された。同委員会では、今年も公葬地に熊が出没しているので、お盆の供物は持ち帰るよう呼びかけている。

たろし滝の幟旗更新を検討

大瀬川たろし滝測定保存会（板垣寛会長）では、3回目となる幟旗の更新をする。1回目は平成9年に緑色で100枚、2回目は、平成22年にオレンジ色で100枚を更新、また平成27年には竿を90本更新している。この幟旗を掲げる時期の約1ヶ月間は特に風が強く、傷みが激しいものもあり、役員からも「そろそろ更新の時期では」との声もあった。大瀬川活性化会議の公募事業交付金を活用し、現在執行部で更新準備を進めている。今回も字体は前回の型紙を利用する。何色の旗ができるのか楽しみにしたいところだ。

人 事（敬称略）

大瀬川公葬地管理運営委員会
 委員長 板垣弘清（再）
 副委員長 畠山智明（新）板垣幸夫（新）高橋仁吉（新）
 監事 菅原富男（再）熊谷武忠（再）
 山王海土地改良区大瀬川地区総代
 菅原教雄（再）熊谷賢良（再）
 板垣光善（新）菅原章博（再）

避難用ベッドと屋内テントを展示

花巻市防災危機管理課では、近年の自然災害による甚大な被害と新型コロナ感染予防の観点から避難所設営時の市担当者による設置訓練として、屋内テントと簡易段ボールベッドを8月11日～18日、大瀬川振興センターに模擬展示している。これは、地区自主防災組織に災害時の避難所運営の理解を深めて頂くことも兼ねており、是非ご覧いただきたい。

訃 報

○上金矢家の板垣勇悦さんは、7月3日に65歳で亡くなられました。まだお若く、第8区自治公民館長や、第8区自主防災会会長として活躍していただけに残念でなりません。

つい半月前に、8区自治公民館が植栽しているプール南花壇の花植えに元気な姿で指示していたのに未だに信じられない思いです。板垣さんは、長年、独立行政法人国立病院機構花巻病院の職員として勤務されてきましたが、勤務中に体調を崩されたとのことでした。思えば板垣さん宅では、近年不幸続きで昨年9月にはお父さんの板垣昭一郎さんを亡くしたばかりで、不運というしかありません。板垣さんの趣味はサッカー観戦で、実際にはプレーはしていませんでしたが、県内の試合には観戦に訪れたり、またテレビでのサッカー中継などにも釘付けになる程でした。近所の方は「板垣さんは、誰とでも話す時には静かな声で丁寧に、ほんとうに真面目な方でした」と悔やんでおられました。天保年間に、大地渡家から分家した大瀬川の旧家である上金矢家を背負われ、懸命に働かれました板垣さんに謹んでご冥福をお祈り申し上げます。

○久太夫家の高橋久雄さんは、7月5日に85歳で亡くなられました。高橋さんは、大瀬川でも多くの役職をなされましたが、その中でも大澤竹次郎の顕彰活動での貢献は語り尽くせない程でした。高橋さんから「大瀬川に、東大の先生をした偉い方がいたよ」と教えられたのがきっかけで、その話を「みつくら編集委員会」で話をしました。委員の中に熊谷豊さんがいて、熊谷さんはインターネットで「大澤竹次郎の思い」なる本を手に入れました。その本には、我が国獣医学の先駆者として思い出が綴られていました。

高橋さんは、謙虚な方で大澤竹次郎顕彰会設立にも一役員になっただけで表に出ませんでした。高橋さんがおられなかったなら大澤竹次郎の研究も無かったことでしょう。高橋さんは、20年間酒屋働きをされた後、第9区自治公民建設委員長と館長を担われました。その時に9区旗の図案を考案した制作したのも高橋さんでした。他にも大澤竹次郎顕彰会副会長や、大瀬川第1老人クラブ会長、くずまる大学学長など地域に多くの貢献を残されました高橋さんに謹んでご冥福を申し上げます。

事 務 室

菅原康栄さん宅東側の高速道路コンクリートボックスの隙間に3年前から桔梗（キキョウ）の花が咲き始め、今年も道路側に倒れないように菅原康栄さんがガムテープで2箇所貼付し、管理していたら背丈が1.3mで高くなり、紫色に咲いた。桔梗は日本で古から秋の七草の一つとして親しまれている清々しい青紫色をしている星形の花で、真夏日でも生育が衰えず-10℃でも影響を受けない丈夫な植物。菅原さんは「前までは自宅近くに咲いていたが、いつのまにかこの場所に種子が飛んだかもしれない」と語っていた。紫の桔梗の花言葉は「永遠の愛」「気品」とのこと。